

消える園児の笑顔

突然の知らせに心が痛んだ。先月、明誠高のとある地域の通信制キャンパスの生徒が自ら命を絶った。そう言えば、昨年自殺した小中高生の数が過去最多の 499 人だという。自殺が 10 代の死因の第 1 位になっている事実にも心が痛む。

長引くコロナ禍の影響が子どもたちにとってストレスとなっていることは間違いない。楽しいはずの学校生活は、味気ないリモート授業と友達と会えない日々となり、通学生活が始まっても、給食では黙食を強制され、最大の弊害の「マスク生活」は今も継続している。世の中のすべてが目まぐるしく変わってきて、育児ノイローゼにならずとも、自分の子育てに悩み自信を無くしている親はとて多いと感じる。子どもの言動・事実をありのままに受け入れ、そこから子育てや教育が始まると分かっているにもかかわらず、ついその事実を否定してしまう大人の子どもへの関わり方が問われている。

同じようなことは保育園でもあるらしい。私の妻は保育園でパート勤めしている。小学校の教員免許はあるが保育士の資格がないため、立場は保育士補助である。0～3 歳児の園児と日々奮闘しているが、毎夜愚痴の連発である。それには「君も大変やね！」と言うぐらいの相槌しか打ってこなかったが、このごろは愚痴の内容をしっかりと聞くようになった。

妻は保育園内に笑顔がないと言う。

給食の時間に野菜が食べられない園児に、先生は「野菜食べないなら、もう給食は終わり！」と叱責するらしい。妻はご飯に隠すように野菜を混ぜれば食べてくれることを知っている。ブロックのおもちゃで遊んでいるとき、飽きてしまったのか絵本を読もうとした園児に、先生は「今はブロックの時間、絵本はダメ！」ときつい口調で言い聞かすらしい。妻は読ませてもいいのでは思っている。園内に先生の否定言葉が響けば園児の笑顔は消える。保育とは園児に快適な園生活を送らせることだと思うがどうだろうか？

もちろん豊翔高等学院は笑顔であふれている(笑)。

(丹羽 豊)